

保健ボランティア育成と母子保健プロジェクト (FIDR 助成)

イスラム系住民の住む、カニパアン村(スルタンクダラト州)、タンビル村、プアゴ村、トゥヤン村(サランガニ州)、ティナガカン村(ゼネラルサントス市)の5村で各村4名のヘルスワーカーを育成するプロジェクトです。

目的は、

1. コミュニティ内にプライマリーヘルスケア(初期治療)を行う保健ボランティアを育成し、病気予防や治療にあたる
2. 妊産婦の健康状態改善、乳幼児の栄養改善

です。医者がいない、お金がない、衛生知識がない、ないないづくしの村ではボランティアのヘルスワーカーが住民の健康の頼りです。

例えばお爺さん、お婆さんが長い刃物や棒をもって家の裏手へ廻る。これは1回ごとに穴を掘って排泄をしているのだそうです。パササンバオ総合医療サービス(PIHS)のスタッフは、たくさんの村を回り、村の中にトイレを作ったり、手を洗うよう指導したり大忙し。その合い間には、難産の女性やテーブルから頭から落ちて泣き止まないという子どもの診察をしています。

そのため村内に住むヘルスワーカーの技術向上が課題になってきました。すでに数回宿泊しながら、病気について、傷・ケガの手当、衛生・栄養について、妊産婦・乳幼児の検診の仕方などの研修を受けました。

また、このプロジェクトはヘルスワーカーや住民が村内の問題に自分たち自身で気づき、行政へ働きかけができる能力を持つことが期待されています。そのためヘルスワーカーはPIHSのスタッフと共に村内の家庭訪問を行い、相談に乗り、アドバイスをするトレーニングもしています。

7月には、妊産婦・乳幼児・6歳以下の子どものための巡回診療も行いました。プアゴ村のヘルスワーカーと会い、話をうかがいましたが、もっと技術と知識を取得し住民の役に立ちたいとのこと。住民にとっても心強い隣人が育っているようです。



血圧計、聴診器の使い方の復習。問題はヘルスワーカーに行き渡る機器がない



胎児の心音を聞く機械の使い方を学ぶ

医療報告

復学をめざして ドネッサ続報

42号でお伝えした精神的障害のため高額な薬代を含め、支援方法を検討中のドネッサですが、村の呪術師に診察してもらったところ、元気を取り戻しました。まだ少しおどおどした感じで、質問にもはきはき応答するわけではありませんが、ピック神父の「勉強を続けたいですか?」という質問に「はい」と答えました。

ヘルス担当のジョジョは「良く食べること、適度な運動をすること」と指導しています。良く食べてちよつとふっくらしたドネッサは、お母さんの畑仕事を手伝って体力をつけ、学校へ戻る日を待っています。

ハーメニアの心臓病悪化

先日届いた医療報告に奨学生ハーメニア(21歳・ハイス쿨3年)への緊急支援要請がありました。14歳からリュウマチ熱の合併症心膜炎で治療中でしたが、貧しいため服薬を中断、重い心臓弁膜症を発症し医師からは手術を勧められているとのこと。父親がサムラングで巡回診療を手伝うなど多少収入があったためか今まで彼女への医療支援要請はありませんでした。尚現地には既に支援の意思を伝えました。

HANDS 定期支援報告/9月

インフルエンザ・肺炎 14名、気管支喘息 1名、疥癬 1名、その他下痢、外傷など合計 27名
うち公立病院入院・治療 12名、CMBクリニックでの治療 10名、私立病院での治療 5名